

**平成28年度  
経済動向調査報告書**

**平成28年第2四半期**

(平成28年7月～9月期)

**一迫花山商工会**

# 経済動向調査報告書

## 1. 調査分析資料

①中小企業庁 中小企業景況調査（第145回 2016年7～9月期）

②宮城県 宮城県の経済動向（平成28年第3四半期 7～9月期）

③宮城県商工会連合会 宮城県商工会地区中小企業景況調査報告書  
（平成28年7月～9月期）

④一迫花山商工会 地域経済動向調査（平成28年度第2四半期）

## 2. 調査対象期間

平成28年7月～9月期

## 3. その他

資料内のDIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（上昇・好転）企業割合と減少（低下・悪化）企業割合の差を示すものとなっています。

DI＝増加（上昇・好転）企業割合－減少（低下・悪化）企業割合
--------------------------------

## 1. 中小企業の景況について（全国）

**【中小企業の業況は、一部業種に足踏みが見られるものの、持ち直しの動きを示している。】**

(1)全産業の業況判断 DI は3期ぶりに上昇した。

(2)製造業の業況判断 DI は4期ぶりに上昇、非製造業の業況判断 DI は3期ぶりに上昇となった。  
産業別に見ると、建設業、卸売業、小売業で上昇し、サービス業で低下となっている。

(3)全産業の資金繰り DI は3期ぶりに上昇し、長期資金借入難易度 DI 及び短期資金借入難易度 DI はいずれも上昇した。

(4)原材料・商品仕入単価 DI は5期連続で低下した。  
一方で、売上単価、客単価 DI も低下したため、採算（経常利益）DI はわずかな上昇となった。

(5)従業員数過不足 DI は3期ぶりに不足感が高まった。産業別に見ても、全ての産業で不足感が高まっている。

（中小企業庁 第145回中小企業景況調査より）

### ・主要 DI 時系列表

#### ①全産業

	2015年		2016年		
	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期
業況判断 DI	▲15.5	▲15.1	▲18.1	▲19.5	▲18.2
売上額 DI	▲13.4	▲13.5	▲17.5	▲19.3	▲17.9
売上単価 DI	▲9.4	▲8.6	▲11.4	▲13.6	▲12.7
商品仕入単価 DI	35.3	30.6	22.6	20.9	16.6
採算 DI	▲23.5	▲22.3	▲25.6	▲24.1	▲24.0

全産業の業況判断 DI、売上額 DI、売上単価 DI、商品仕入単価 DI、採算 DI の主要 DI は前期から上昇・改善した。

業況判断 DI、売上額単価 DI は3期ぶりの上昇、売上額 DI は4期ぶりの上昇となった。

## ②製造業

	2015年		2016年		
	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期
業況判断 DI	▲12.8	▲12.9	▲16.8	▲16.9	▲15.6
売上額 DI	▲9.9	▲11.0	▲14.8	▲15.7	▲16.2
売上単価 DI	▲3.1	▲3.0	▲4.7	▲7.4	▲7.0
商品仕入単価 DI	40.7	31.5	21.4	17.6	13.4
採算 DI	▲20.3	▲20.0	▲22.2	▲20.8	▲22.0

製造業については業況判断 DI、売上単価 DI が上昇、商品仕入単価 DI が減少したものの、売上額 DI 及び採算 DI が減少している。

## ③建設業

	2015年		2016年		
	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期
業況判断 DI	▲8.2	▲8.5	▲11.5	▲11.5	▲8.8
売上額 DI	▲8.3	▲12.2	▲13.7	▲13.5	▲11.0
売上単価 DI	-	-	-	-	-
商品仕入単価 DI	42.4	36.3	29.3	27.3	23.2
採算 DI	▲21.2	▲18.8	▲18.9	▲18.5	▲17.0

建設業は引き続き順調に推移しており、業況判断 DI、売上額 DI、商品仕入単価 DI、採算 DI いずれも前期より上昇・改善した。

## ④卸売業

	2015年		2016年		
	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期
業況判断 DI	▲16.1	▲12.2	▲13.5	▲18.9	▲17.7
売上額 DI	▲10.7	▲9.1	▲11.2	▲16.1	▲16.4
売上単価 DI	4.6	3.9	▲4.3	▲7.8	▲6.1
商品仕入単価 DI	45.1	37.2	24.2	18.2	12.1
採算 DI	▲21.7	▲18.2	▲20.2	▲19.2	▲21.9

卸売業は前期に大幅に落ちた業況判断 DI や売上単価 DI、商品仕入単価 DI が上昇・改善しているが、前期に続き売上額 DI は減少し、採算 DI も併せて減少と転じた。

⑤小売業

	2015年		2016年		
	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期
業況判断 DI	▲25.3	▲25.5	▲28.4	▲29.2	▲28.4
売上額 DI	▲21.5	▲21.9	▲26.8	▲27.7	▲27.0
売上単価 DI	▲19.8	▲19.1	▲22.8	▲22.8	▲22.9
商品仕入単価 DI	25.1	23.5	17.0	15.5	10.4
採算 DI	▲32.7	▲31.6	▲37.5	▲34.0	▲34.3

小売業は業況判断 DI、売上額 DI が上昇し、商品仕入単価 DI も改善しているが、売上高 DI 及び採算 DI がわずかに減少している。

⑥サービス業

	2015年		2016年		
	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期
業況判断 DI	▲13.9	▲12.4	▲15.2	▲16.7	▲17.0
売上額 DI	▲12.1	▲11.2	▲14.6	▲18.0	▲15.2
売上単価 DI	▲8.7	▲7.1	▲8.8	▲12.5	▲10.6
商品仕入単価 DI	34.2	31.9	24.8	25.7	22.4
採算 DI	▲20.1	▲19.1	▲22.7	▲22.2	▲20.7

サービス業の業況判断 DI は悪化しているものの、前期は悪化傾向だった売上額 DI、売上単価 DI、商品仕入単価 DI が改善し、採算 DI も2期連続して改善となった。

(中小企業庁 第145回中小企業景況調査より)

## 2. 中小企業の景況について（宮城県）

【生産は持ち直しており、求人倍率は高水準で推移しているなど、基調としては緩やかに回復しているものの、住宅投資、公共投資や個人消費など一部に弱い動きが見られる。】

### (1)本県の経済概況

- ①生産・・・東日本大震災の影響があるなかで、持ち直している。
- ②住宅投資・・・高水準で推移しているものの、減少傾向の動きとなっている。
- ③公共投資・・・高水準で推移しているものの、減少傾向の動きとなっている。
- ④個人消費・・・減少傾向の動きとなっている。
- ⑤雇用・・・改善傾向の動きとなっている。
- ⑥企業倒産・・・小康状態が続いている。

### (2)主な指標の動き

#### ①生産

鉱工業生産指数は前期比 0.5%とわずかに低下した。業種別に見ると電子部品・デバイス工業、食品工業が低下となり、生産用・業務用機械工業は前期に続き上昇している。

#### ②建設投資

新設住宅着工戸数や公共工事請負金額は高水準であり前期より上昇しているが、前年同期と比較した場合 15.4%の減となっている。

#### ③個人消費

百貨店・スーパー販売額は前期より上昇しているが、前年同期と比べた場合は前期同様減少している。また、乗用車新車登録台数については普通車が上昇しているものの、軽自動車が減少してきており、前期より登録台数は上昇したが、前年同期と比べると 5.6%の減となっている。

#### ④物価

仙台市消費者物価指数（基準年：H27）は総合指数が 99.6 で前期より 0.3%の低下となった。生鮮食品を除く総合指数は 99.6、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は 100.2 となり、どちらも前期より低下した。また、前年同期と対比しても低下傾向である。

### 3. 全国・東北ブロック及び宮城県の景況、今後の見通しについて

#### (1)全国、東北ブロック及び宮城県の景況

##### ①売上額

宮城の売上額 DI は全国、東北同様に全業種でマイナス値であった。前期との比較では建設業、製造業、サービス業で改善はしているが、小売業で悪化となった。

宮城の全国、東北との売上額 DI の比較では、製造業では全国、東北以上、建設業で全国、東北以下、小売業、サービス業で全国以下、東北以上であった。

##### ②採算

宮城の採算 DI は売上額 DI 同様に全業種でマイナス値（全国、東北同様）であった。前期との比較ではサービス業で改善、製造業、建設業、小売業で悪化した。

全国、東北との採算 DI の比較では、製造業では全国、東北以上であるが、建設業、小売業では全国、東北以下、サービス業では全国以下、東北以上であった。

(宮城県商工会連合会 宮城県商工会地区中小企業景況調査報告書 平成 28 年 7 月～9 月期より)

#### (2)県下産業別の景況

##### ①製造業

	全国			東北			宮城		
	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し
売上額 DI	▲16.8	▲20.5	▲14.1	▲18.3	▲22.0	-	▲9.4	▲3.2	▲6.5
採算 DI	▲18.8	▲21.9	▲17.3	▲21.3	▲24.1	-	▲6.4	▲20.0	▲22.5

製造業の売上額 DI、採算 DI は全国で上昇しているが、東北では売上額 DI、採算 DI とともに低下、宮城では売上額 DI は上昇したものの、採算 DI は大幅に低下しており、来期はどちらも低下の見通しとなっている。

②建設業

	全国			東北			宮城		
	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し
売上額 DI	▲18.2	▲15.9	▲21.5	▲26.8	▲18.9	-	▲32.0	▲20.0	▲41.7
採算 DI	▲16.5	▲17.4	▲20.0	▲17.5	▲15.2	-	▲12.0	▲20.0	▲12.5

建設業の売上額 DI は全国、東北、宮城で上昇しており、特に東北、宮城の上昇率が高い。見通しは全国、宮城共に低下の見込みである。

採算 DI については全国、宮城で減少、東北では上昇となっている。見通しについては全国では連続して低下の見込みだが、宮城は減少に転じる見込みとなっている。

③小売業

	全国			東北			宮城		
	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し
売上額 DI	▲38.1	▲39.2	▲35.3	▲39.6	▲51.6	-	▲42.9	▲50.0	▲44.2
採算 DI	▲34.2	▲34.0	▲30.8	▲35.9	▲41.1	-	▲45.2	▲47.7	▲43.2

小売業の売上額 DI は全国、東北、宮城全てで低下しており、特に東北と宮城の低下率が高くなっているが、来期については全国、宮城共に低下の見通しとなっている。

採算 DI については全国でわずかに上昇したものの、東北、宮城で低下している。来期には全国、宮城共に上昇の見通しである。

④サービス業

	全国			東北			宮城		
	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し
売上額 DI	▲22.3	▲22.6	▲21.2	▲20.4	▲29.7	-	▲36.4	▲27.3	▲27.2
採算 DI	▲25.0	▲23.9	▲22.9	▲26.6	▲28.3	-	▲38.7	▲24.5	▲27.3

サービス業の売上額 DI は全国でわずかに低下、東北で低下、宮城は上昇している。来期見通しについては全国、宮城共に上昇の見通しとなっている。

採算 DI については全国、宮城で上昇、東北は低下となっている。来期見通しは全国では若干の上昇の見通しだが、宮城は低下の見込みである。

# 一迫花山商工会 地域経済動向調査

## 【調査実施要領】

### ①調査目的

経営発達支援計画に基づき実施する本調査は、商工会会員事業所の経済動向及び課題、要望等を把握し、今後の小規模事業者支援の基礎資料として活用する。

### ②調査対象

商工会会員事業所の中から20事業所を抽出。

・対象事業者の構成

	会員数	比率	調査事業所数
小売業	76	29, 9%	6
建設業	76	29, 9%	6
製造業	29	11, 4%	2
サービス業	40	15, 7%	3
その他	33	13, 0%	3
合計	254		20

### ③調査実施時期

- (1)第1四半期調査 (4月～6月期) 平成28年 9月実施済  
**(2)第2四半期調査 (7月～9月期) 平成28年11月実施**  
(3)第3四半期調査 (10月～12月期) 平成29年 2月実施予定  
(4)第4四半期調査 (1月～3月期) 平成29年 5月実施予定

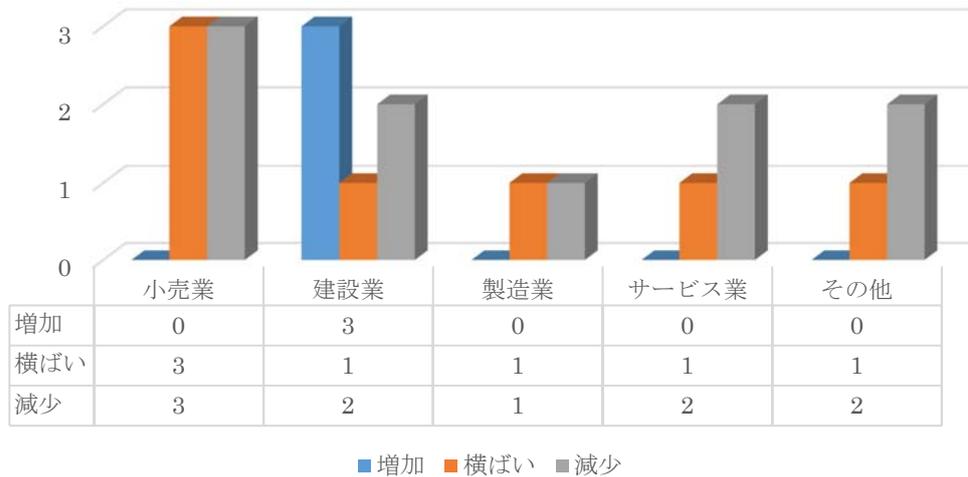
### ④調査の方法

商工会各職員により対象事業所への巡回訪問等による調査票の配布。  
職員による巡回訪問及びFAXによる回答。

# 1. 平成28年度第2四半期調査結果（平成28年7月～9月期）

## ①売上高（前期対比）

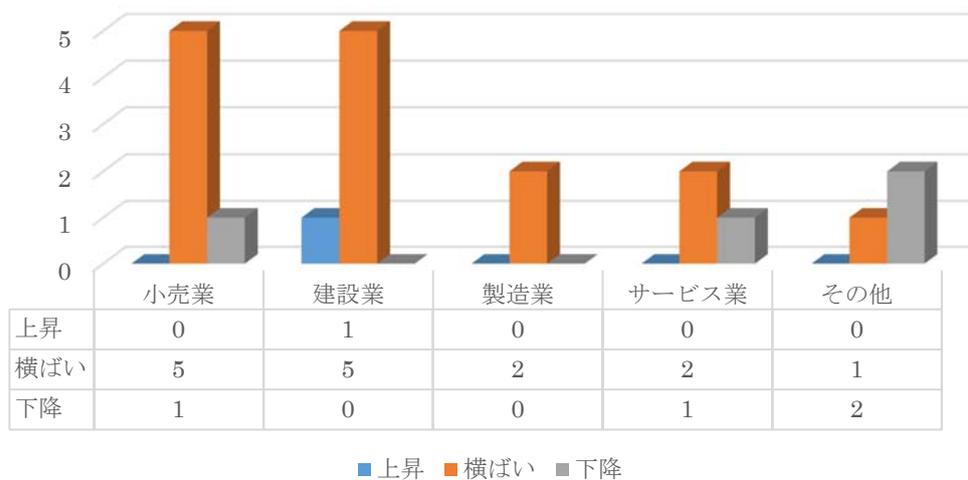
売上高



- 売上高が「増加」している業種は建設業のみとなり、前期調査と比べ「増加」の回答数が半減している。
- 売上減少の要因として例年と比べ来店者数が減少している等が挙げられた。

## ②製品・商品販売単価（前期対比）

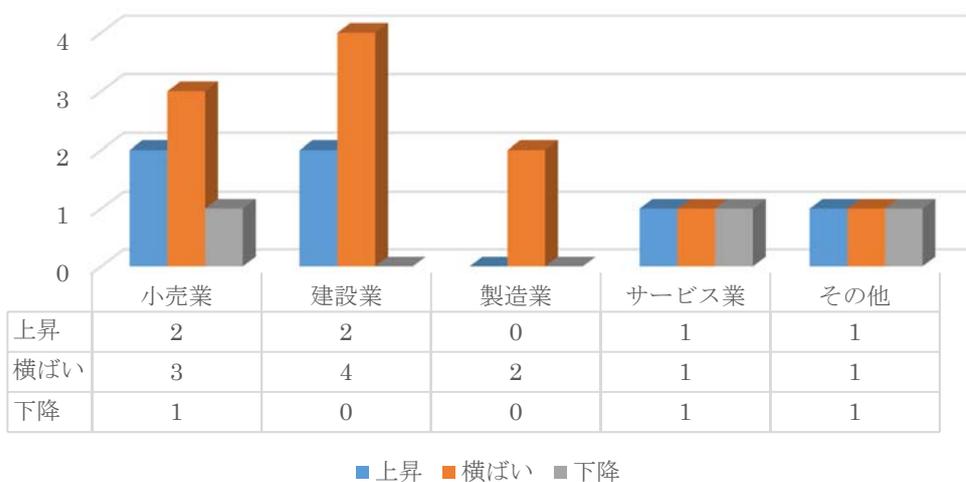
製品・商品販売単価



- 製品・商品販売単価は前期調査に引き続き多くの事業所が「横ばい」で推移している。
- 「下降」した事業所は前期に比べて1件増える結果となり、顧客確保に向けた価格競争等の理由が考えられる

### ③原材料・仕入価格

原材料・仕入価格

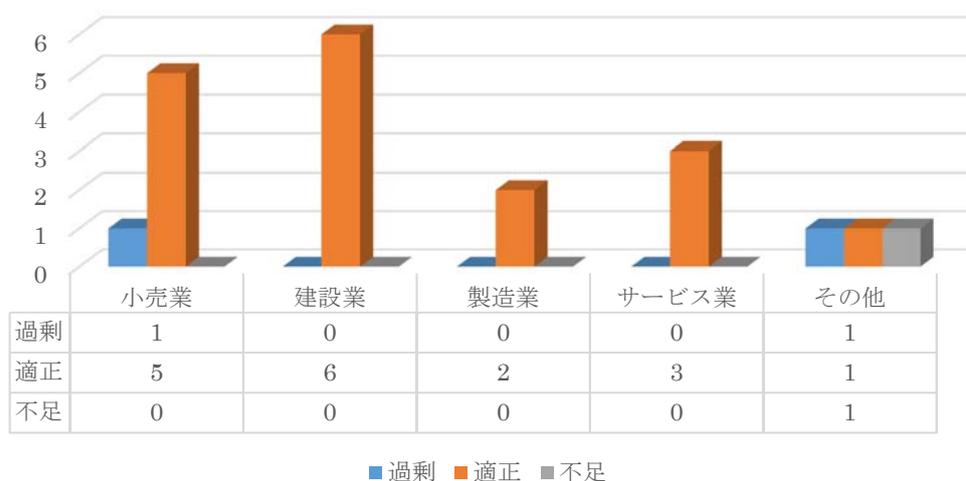


○前期調査に引き続き今期も「横ばい」の回答が一番多かった。

○製造業を除く各業種から価格「上昇」の回答があり、小規模事業者の経営への影響から、今後は販売価格への転嫁や経費の削減等の対応が考えられる。

### ④製品・商品在庫

製品・商品在庫

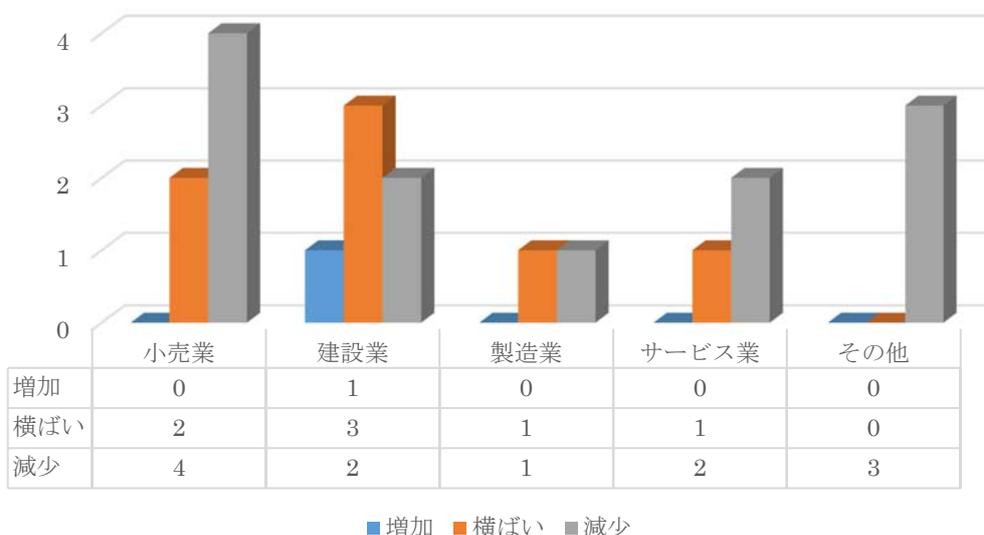


○前期調査に比べ在庫が「適正」と回答した事業所が増えており、多くの事業所での在庫の管理徹底が感じられる。

○「過剰」が2件、「不足」が1件の中、「適正」は17件と特に高い割合となっている。

## ⑤ 経常利益

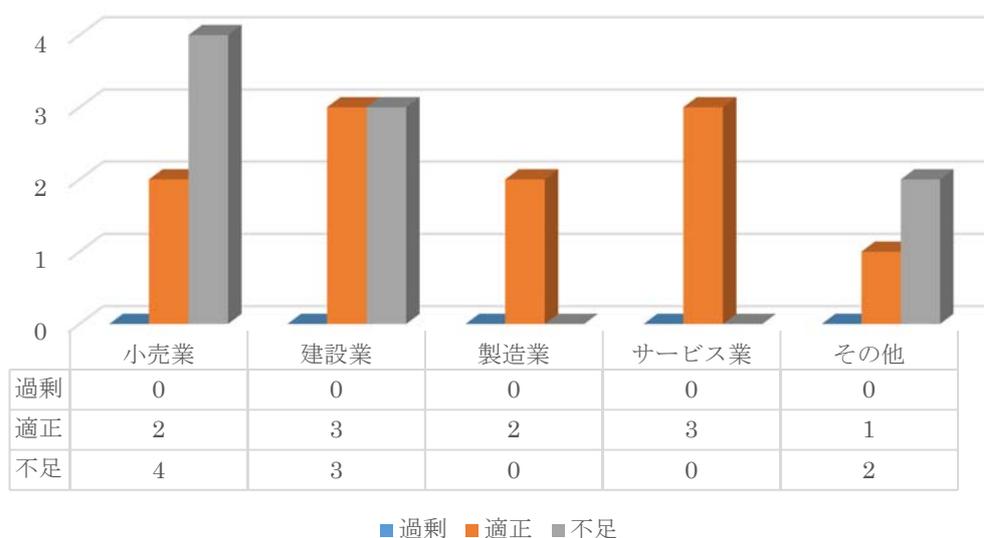
### 経常利益



- 「増加」と回答した事業所は1件にとどまり前期以上に厳しい状況となっている。
- 売上高が「増加」・「横ばい」の事業所も利益の確保ができていない結果となった。

## ⑥ 労働力

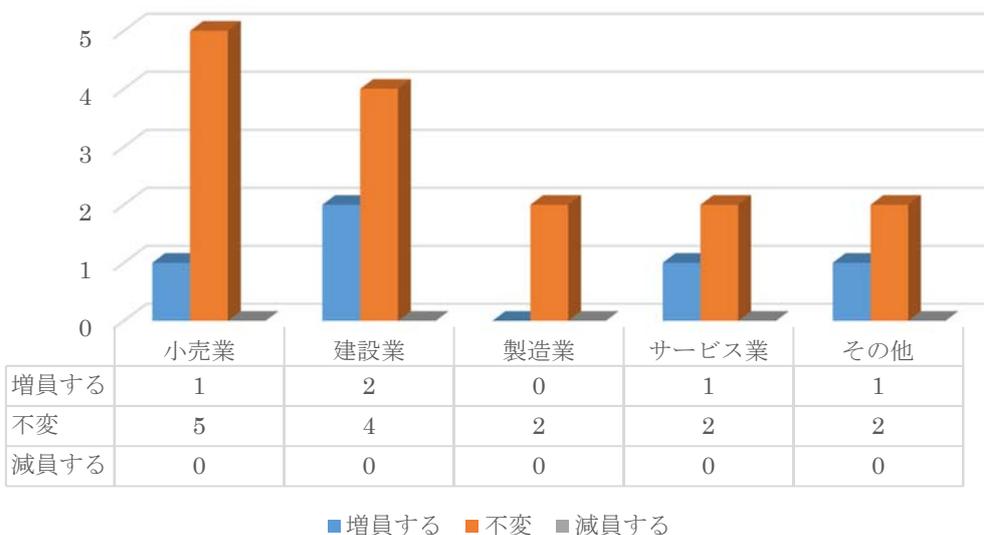
### 労働力



- 前期調査同様労働力は「適正」もしくは「不足」のみとなっているが、「不足」と回答した事業所が増加している。
- 労働人口の高年齢化による世代の入れ替わりが「不足」の要因の1つと考えられる。

⑦従業員数（今後の予定）

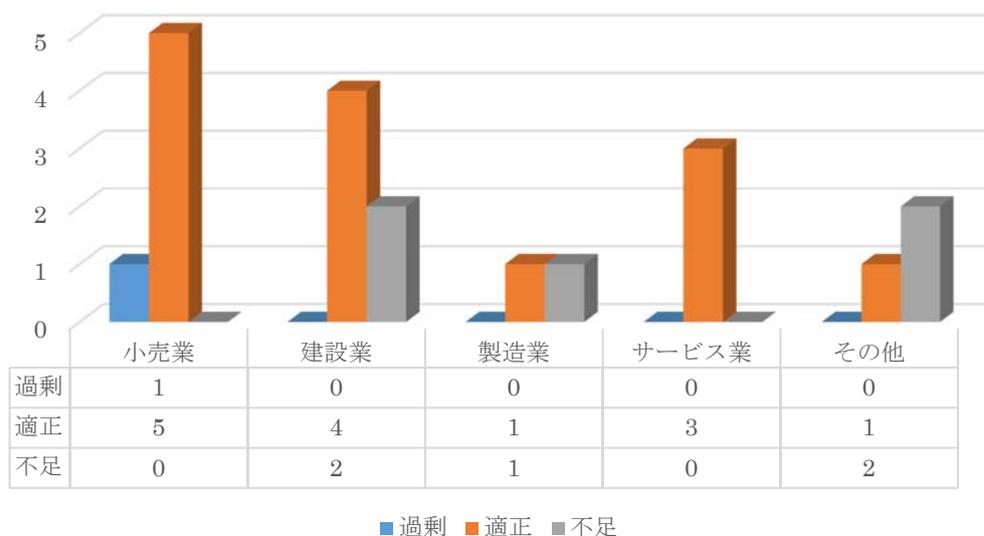
従業員数



- 前期調査同様多くの事業所が「不変」と回答している。
- 求人募集を行ってもなかなか集まらないなど人材の確保に苦戦の状況である。

⑧生産・営業用設備

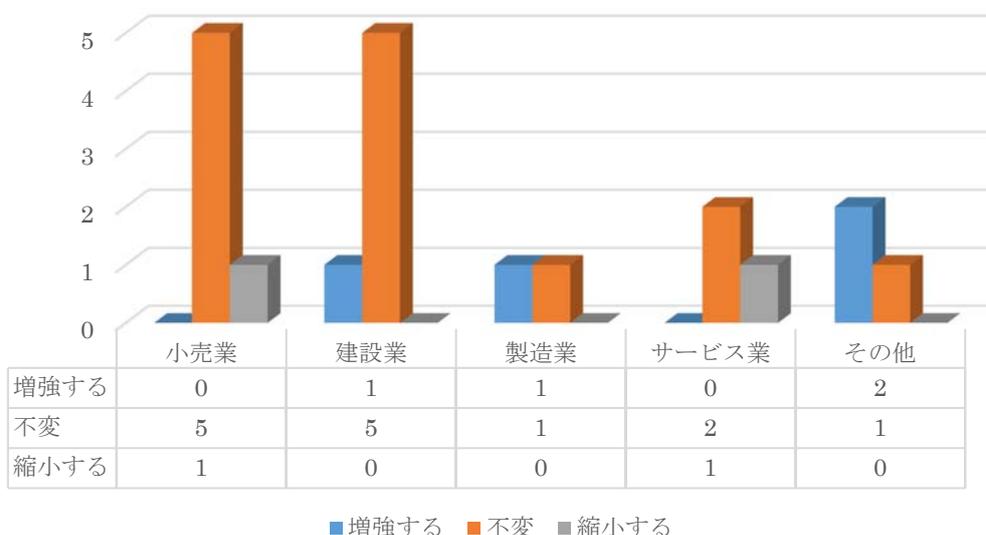
生産・営業用設備



- 前期調査同様半数以上の事業所で「適正」との回答であった。
- 「適正」な状況であるものの設備の老朽化等の問題を不安視している声も挙がった。

### ⑨生産・営業用設備（今後の予定）

生産・営業用設備（今後の予定）

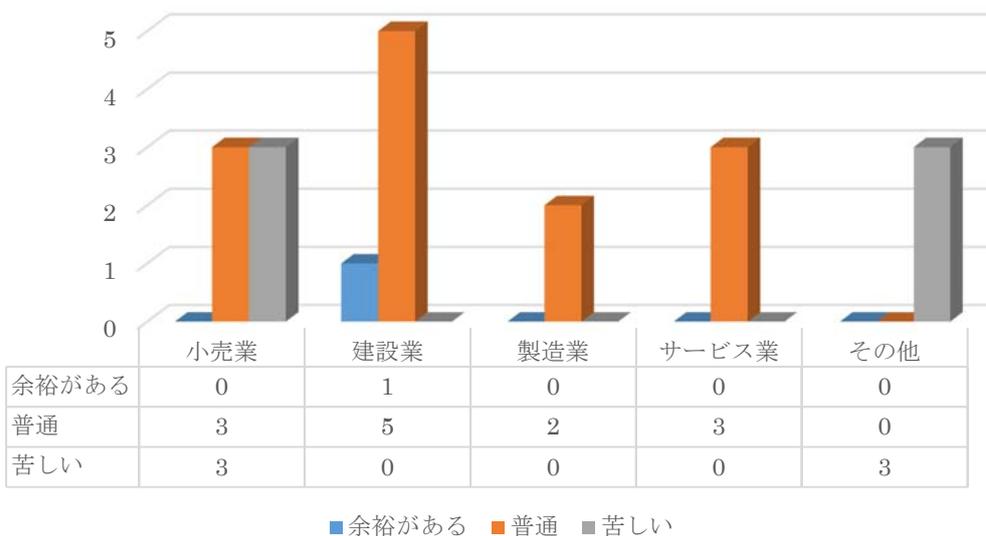


○設備の今後に関しては多くの事業所が「不変」と回答し、「増強」及び「縮小」と回答した事業所は少数に止まった。

○経営者の高齢化が進んでおり設備投資について足踏みしている事業所も多くなってきているようである。

### ⑩資金繰り

資金繰り

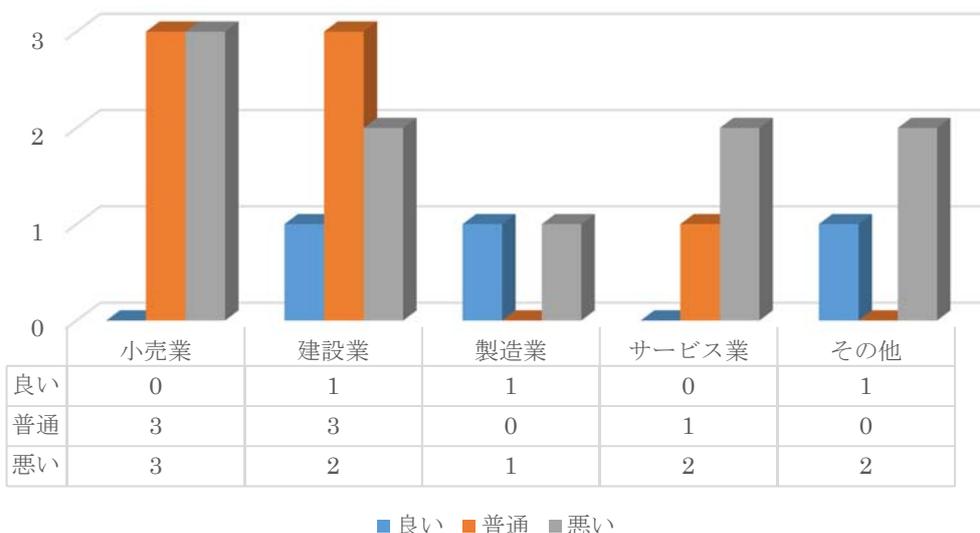


○資金繰りは多くの事業所が「普通」と回答し、ほぼ前期調査と同様の結果となっている。

○「余裕がある」事業所に対して「苦しい」事業所の割合が高く、自己資本率が低い小規模事業者は特に厳しい状況になっている

### ⑪事業所の業況（今期業況）

事業所の業況（今期業況）



- 前期調査時の来期見通しと比較すると見通しよりも悪くなっている事業所が多い結果となった。
- 前期業況と比較すると「悪い」が増えており、景況はいまだに低迷状態である。

### ⑫事業所の業況（来期見通し）

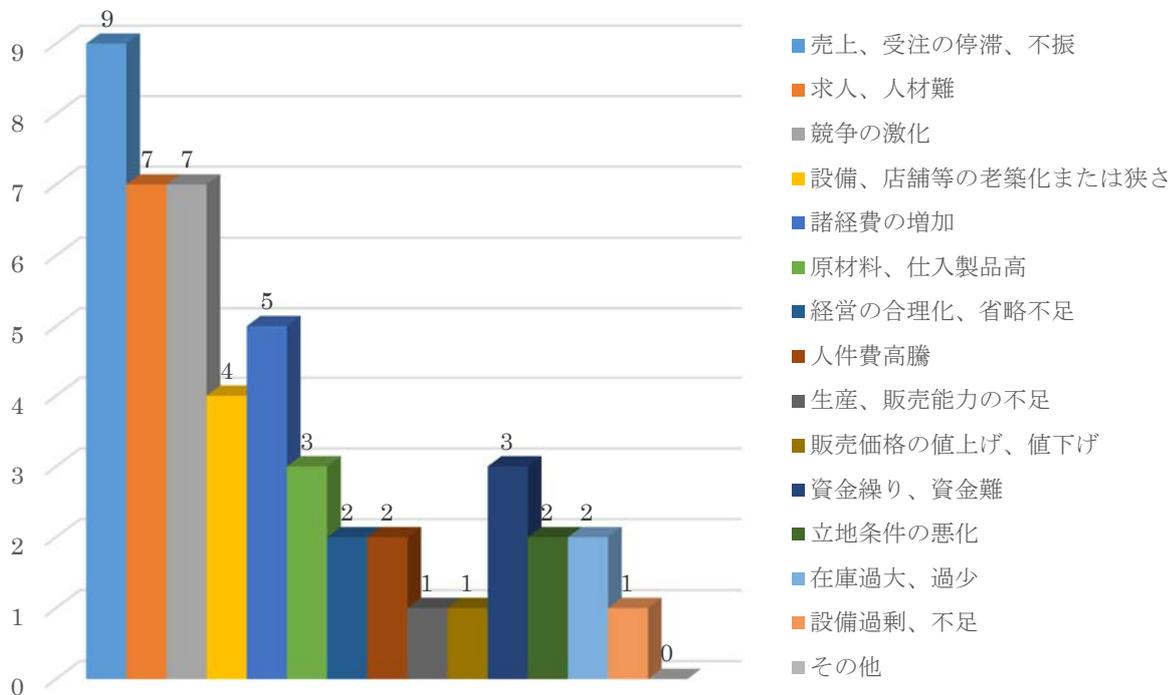
事業所の業況（来期見通し）



- 来期見通しは「悪い」と回答した事業所が目立つ結果となった。理由としては来客数が落ちる時期等が挙げられた。

## ⑮経営上の課題

経営上の課題



○「売上、受注の停滞、不振」が約半数の事業所より上げられた。

## ⑭期待する公的支援策など

・人口減少の対策（若年層流出と高齢化対策）